

マクロ経済学

講義ガイダンス

山田知明

明治大学

2022 年度講義ガイダンス



講義に関して

- テキスト

- ダロン・アセモグル/デヴィッド・レイブソン/ジョン・リスト
『ALL マクロ経済学』 東洋経済新報社
- ジョセフ・E・スティグリッツ/カール・E・ウォルシュ
『スティグリッツ入門経済学 第4版』 東洋経済新報社

- 進んだトピックを学習したい人向け

- 福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門 第4版』 有斐閣
- 齊藤誠・岩本康志・太田聡一・柴田彰久『マクロ経済学』 有斐閣

講義に関して (続き)

- 講義関連情報

- Oh-o!Meiji
- <https://tomoakiyamada.github.io/>
- Google “Tomoaki Yamada”
- 明治大学商学部 → 専任教員一覧

- 成績評価

- 期末試験 (70%) + レポート (30%) によって評価@シラバス
- 上記は COVID-19 の感染状況が良い場合のルール

マクロ経済学の概要：テキストの目次より

1. 国の富
2. 総所得
3. 経済成長
4. なぜ豊かな国と貧しい国があるのか?
5. 雇用と失業
6. クレジット市場
7. 金融市場
8. 景気変動
9. 反循環的マクロ経済政策
10. 景気循環と財政・金融政策

1. マクロ経済統計

経済を診断する：政策当局が参考にする主要な指標

1. GDP (国内総生産：Gross Domestic Product)

- 一国の豊かさや経済状態を測る指標
- 何をどうやって測っている?

2. 失業率

- あと数年後には就職活動
- 時代と共に変わる雇用環境 ⇒ 経済格差

3. 物価 (インフレーション・デフレーション)

- インフレ/デフレの何が問題か?
- 中央銀行 (日本銀行) の役割と金融政策

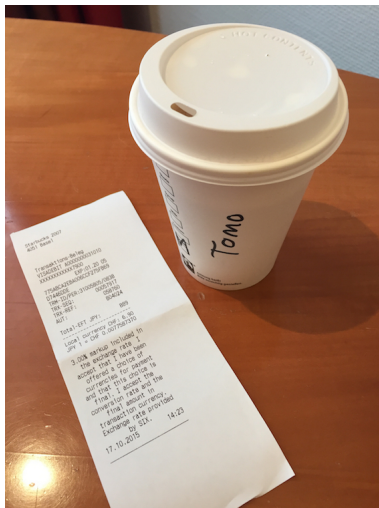
物価：スウェーデンの場合



物価：スウェーデンの場合



物価：スイスの場合



2. 経済成長

長期的 (Long-run) 視点から見たマクロ経済

- 「なぜ我々はかくも豊かで彼らはそのように貧しいのか?」
 - 日本、アメリカ、BRICs、アフリカ諸国 etc.
- 豊かな国と貧しい国の違いを生み出すメカニズム

3. 一般均衡的視点

- マクロ経済はミクロ的市場の集まり
- ミクロ的に正しいことがマクロ的にも正しいとは限らない
 - 合成の誤謬 ⇒ マクロ的視点
- 部分均衡分析から一般均衡分析へ
 - 様々な市場の相互依存関係
 1. 財市場：農産物、車、サービス etc.
 2. 労働市場 (雇用と市場)：失業、正規・非正規雇用、パート etc.
 3. 資産市場 (クレジット市場・金融システム)：日経平均株価、金融政策、為替市場 etc.

4. 景気変動と財政・金融政策

短期的 (Short-run) なマクロ経済変動

- 好況と不況のメカニズム
 - 大恐慌 (the Great Depression) と大不況 (the Great Recession)
- 不況の何が問題なのか?
 - 雇用不安と失業
 - インフレーション・デフレーション (物価変動)
- マクロ経済政策
 1. 財政政策：国債発行と財政の持続可能性
 2. 金融政策：量的緩和からマイナス金利へ

『マクロ経済学』が生まれた背景

- 大恐慌：1929 年
 - 原因については今でも様々な意見がある
 - 金融的要因？それとも実物的要因？
- マクロ経済学の役割：1936 年
 - J.M. ケインズ『雇用、利子及び貨幣の一般理論』
 - ケインズ経済学
 - 現在のマクロ経済学のスタート地点
 - 基本的な発想：財政・金融政策でマクロ経済を安定化
 - 対立する(?) 見解
 - 新古典派経済学 vs ケインズ経済学
 - Pure water economics vs Salt water economics

ルーカス批判

- 市場に頼るべきか、それとも積極的に景気対策すべきか?
 - 新古典派総合：短期と長期の使い分け
- ケインズ経済学の有効性と限界：1960年代
 - スタグフレーション(高インフレ+高失業)の説明に苦慮
- ルーカス批判：1970年代
 - 「経済政策を行うと人々の意思決定も変わるので、マクロ経済政策を考えるうえでミクロ的な人々の(合理的な)行動を無視するわけにはいかない!」
 - マクロ経済学のミクロ的基礎づけ ⇒ 一般均衡的視点

ケインズ経済学の復権？

- 1990年代以降、世界経済は安定化
 - 偉大な安定期 (the Great Moderation)
 - マクロ安定化政策がうまくいった結果？偶然？
 - 金融政策によるファインチューニング
- 大不況：2008年
 - 米国における信用の拡大と不動産バブル
 - 国境を超えるマネーと金融規制のあり方
 - 協調的な財政政策 ⇒ 新たな危機へ
 - 量的・質的金融緩和と“アベノミクス”
- 更なる課題
 - 戦争とインフレーション
 - 少子高齢化と財政の持続可能性
 - パンデミック後の世界経済

まとめ

講義目標 (1)

マクロ経済統計の中身 (と問題点) を理解する

講義目標 (2)

長期と短期のマクロ経済学を理解して、日本経済や世界経済の動向を自分の言葉で説明できるようになる

講義目標 (3)

政府が行なうマクロ経済政策の意図とその是非を分析できるようになる